

第2回 SDGs エコフォーラム in 埼玉

申込用紙

必要事項をご記入またはチェック☑のうえ、メール又はFAXにてお申込みください。
個人情報は目的以外に使用しません。

E-mail : kunitake@kannet-sai.org FAX : 048-749-1218

私は、環境省の国民運動「COOL CHOICE (クールチョイス)」に賛同し、行動することを宣言します。

COOL CHOICE とは、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など、地球温暖化防止に役立つあらゆる「賢い選択」を実践していく国民運動です。賛同いただける方はチェックをお願いします。

お名前	ふりがな	ご所属	
TEL		E-mail	
参加方法	<input type="checkbox"/> 会場 <input type="checkbox"/> オンライン (※後日、招待メール(Zoom予定)をお送りしますので、必ずE-mailをご記入ください)		

↓ 参加又は希望する箇所に☑をお願いします

全体会 (10:00 ~ 11:50) ※会場定員 200 名程度、オンライン定員 300 名

- ・基調講演「グローバルからローカルへ：持続可能な開発目標 (SDGs) の視点から未来を考える」カトラミーズ・ターレク氏 (慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科 特任講師)
- ・高校生 SDGs スピーチ
- ・エコライフ DAY 埼玉感謝状贈呈

↓ いずれかに☑をお願いします

分科会の参加 (13:00 ~ 16:30) ※会場定員各 50 名程度、オンライン定員各 100 名

<input type="checkbox"/>	コロナ禍から見た新しい暮らしのカタチとは？
<input type="checkbox"/>	脱炭素を目指し再エネの比率を増やすには！
<input type="checkbox"/>	水辺の環境と生物多様性保全
<input type="checkbox"/>	つくる責任 つかう責任
<input type="checkbox"/>	グローバルな環境教育とは？

報告書について (希望される方には、令和3年3月下旬に報告書を送付します)

<input type="checkbox"/> 希望する	※送料 (300 円) は受付時にお支払いください ※オンライン参加者には、原則“ゆうメール着払(300 円程度)”にて送付いたします	<input type="checkbox"/> 希望しない
〒 <input type="text"/>		
※送付先住所をご記入ください		

会場参加に関するお願い お越しの際はマスク着用の上、受付にて手指消毒・検温等にご協力ください。また感染防止のため、以下に合致する方は参加をお控えください。①体調がよくない。②新型コロナウイルス感染陽性とされた者と濃厚接触がある。③同居人や身近な知人に感染が疑われる者がいる等。ご来場時の症状によっては、入場をお断りすることがあります。なお開催にあたっては埼玉県「新型コロナウイルス感染症総合サイト」における最新情報に順に対応します。

第2回 SDGs エコフォーラム in 埼玉実行委員会事務局
 (埼玉県地球温暖化防止活動推進センター/特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉)
 〒330-0074 埼玉県さいたま市浦和区北浦和 5-6-5 埼玉県浦和合同庁舎 3 階
 TEL : 048-749-1217 FAX : 048-749-1218 E-mail : kunitake@kannet-sai.org
 URL : <https://www.kannet-sai.org/>

問い合わせ
連絡先



第2回 SDGs エコフォーラム in 埼玉

つながろう 広がろう 世代を超えて

エコの環

日時 2021年1月30日±
10:00 ~ 16:30

会場 市民会館うらわ&オンライン

参加 無料 ※報告書が必要な方は、
送料をご負担ください

SDGsエコフォーラムin埼玉は、これまで18年間にわたり開催してきた「環境まちづくりフォーラム・埼玉」「低炭素まちづくりフォーラムin埼玉」の実績を継承し、持続可能な社会の構築を見据えた新たな取組として昨年度名称を変更しスタートしました。県内において環境を中心とする活動を実践している団体、企業、行政、教育機関、地球温暖化防止活動推進員等が一同に会し、情報交換、相互交流、情報発信等を通じてSDGsの達成に寄与することを目的とします。



主催：第2回 SDGs エコフォーラム in 埼玉実行委員会
共催：埼玉県地球温暖化防止活動推進センター、埼玉グリーン購入ネットワーク、パリクラブ 21 埼玉
後援：埼玉県

※環境省「令和2年度地域における地球温暖化防止活動促進事業」及び公益財団法人サイサン環境保全基金を活用して開催します。

プログラム予定

10:00 ~ 10:10

挨拶

ホール

10:10 ~ 11:10

基調講演

「グローバルからローカルへ:持続可能な開発目標(SDGs)の視点から未来を考える」

カトラミーズ・ターレク氏

(慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任講師)



シリア共和国のダマスカス生まれ。2006年ダマスカス大学人文学部で学士(日本語日本文化学科)取得。JICAシリア事務所の職員として環境管理等に2年間従事。2008年3月に退職し、日本政府(文部科学省)奨学金留学生として来日。東京外国語大学での日本学研究の後、慶應義塾大学の政策メディア研究科より修士号と博士号を取得。専攻は国際関係論、サステナビリティ学。コンサルティング会社でのリサーチアナリストを経て、2018年9月から2020年8月まで国際連合大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)リサーチフェローとしてSDGsのためのガバナンス課題を研究。現在、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師として、事例研究に基づき、企業がSDGs推進を適切にできるための指標の開発を研究。

11:10 ~ 11:30

高校生 SDGs スピーチ

奥田 成美氏 (国際学院中学校高等学校第1学年)

11:30 ~ 11:50

エコライフ DAY 埼玉感謝状贈呈

11:50 ~ 13:00

休憩

13:00 ~ 16:30

分科会 ※5つの分科会を同時開催します

集会室

- ・ コロナ禍から見た新しい暮らしのカタチとは?
- ・ 脱炭素を目指し再エネの比率を増やすには!
- ・ 水辺の環境と生物多様性保全
- ・ つくる責任 つかう責任
- ・ グローカルな環境教育とは?

会場アクセス

市民会館うらわ

〒330-0062
埼玉県さいたま市
浦和区仲町 2-10-22

【電車でお越しの方】
JR 京浜東北線ほか
浦和駅西口より徒歩7分

【浦和駅よりバスをご利用の方】
国際興業又は東武バス
「市民会館入口」下車徒歩1分

※公共交通機関をご利用ください。



分科会紹介

講 講義 パネルディスカッション 事 事例発表 意 意見交換

各分科会の講師・登壇者情報等は、随時ホームページ(<https://www.kannet-sai.org/about/activities/2020/0130.html>)にて更新します。詳しくは、以下で検索いただくか、右のQRコードからご覧ください。



第2回 SDGs エコフォーラム

検索

コロナ禍から見た新しい暮らしのカタチとは?

~目指すべき家庭の省エネをコロナ前後の様々な変化から考える~



講 パ

家庭の省エネの一つ一つは小さな活動ですが、全ての人に関りを持てる重要な温暖化対策だと考えます。今年はコロナ禍でテレワーク等が普及し、家で過ごす時間が増えています。分科会ではコロナ禍前後の家庭のエネルギー消費の違いを講義とディスカッションで共有して、持続可能かつ豊かな新しい暮らしのありかたを考えます。

脱炭素を目指し再エネの比率を増やすには!

~私たちが身近に再エネを得るためには!~



講 意

地域の活用電源はどう変わるのか。2022年にエネルギー供給強靱化法が成立します。それによって、私たちは再エネを使いやすくなるのでしょうか。強靱化法の成立後、どう再エネの供給が変わるのか、最新情報を学習し、私たちが身近に再エネを使える地域社会について考えます。

水辺の環境と生物多様性保全

~生物多様性を「知り」「伝えよう」~



講 意

埼玉県には様々な豊かな自然が沢山有り、内陸県で海は有りませんが、河川が県土全体に占める面積の割合は全国一と豊かな水辺の環境に恵まれています。しかし、近年は地球温暖化や都市化などによる影響で、生物多様性が脅かされつつあります。今回は水辺の環境保全を行っている行政や市民団体の取組を紹介することで活動の輪を広げます。

つくる責任 つかう責任

~ゴール12から具体的取組を考える~



講 事 パ

No.12「つくる責任 つかう責任」は、消費者、生産者、販売事業者、行政など多くの人にとって身近に関わるゴールです。その達成に向けてどのように取り組んでいくのか。他のゴールの達成にどう貢献していくのか。先進的な取組事例を学びながら、パートナーシップの立場で考え、発信します。

グローバルな環境教育とは?

~地域や世代を超えた社会参加型の生き方を考えてみよう!~



講 パ 意

地球社会への貢献、人材育成を目的とする「グローバル教育推進プロジェクト代表理事辰野まどか氏」からのお話を基に、多様な考えを持つ参加者からの疑問・提案などについて活発に議論を行い、SDGsゴールに向かうための私たちの具体的な行動について、環境教育からのシミュレーションを試み、参加者と共有します。